

学生と地域で育児をサポートしよう！

～育児を地域で支える八王子に～

天谷永ゼミナール

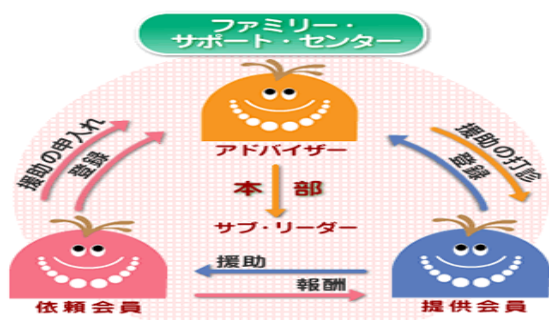
藤川一博、鈴木佳奈、新村由記、長岡秀美、山邊慎吾、長谷川貴志

指導教員 天谷永

創価大学経営学部 経営学科 天谷ゼミナール

【目的】

私たちの目的は、育児負担の軽減である。現在、共働きの世帯の増加によって子育てと仕事の両立が困難となっている家庭も多くあるであろう。そこで、私たちは育児負担が減ることにより、共働きの親の拘束時間が減少することに繋がる。よって、労働時間の幅が広がる。現在、八王子では一時保育などのサービスがあり、子供を預けて働く親が多くいるのが現状である。そこで私たちは育児負担を軽減するプランを提案する。提案の概要は、八王子市が運営する「ファミリー・サポート・センター」が行っている「ファミリー・サポート」という育児をサポートする制度を活用し、学生と地域が一体となった子育て支援を促進する。



【現状分析】

全国で少子高齢化が問題となっているように、八王子市でも本格的に進んでおり、八王子市としても子供を育てやすい街づくりが求められている。平成 29 年 9 月の八王子市ホームページの人口集計によると、0 歳～14 歳は 11.98%、65 歳以上は 26.01%の比率であり、2 倍以上の人数差がある。また、平成 28 年の待機児童集計によると

2012 年度の 49 人から 370 人と 4 年で 7 倍超に増加している。

現在八王子市では、地域での子育ての手助けをしている「ファミリー・サポート・センター」という団体がある。子育てを手助けしてほしい依頼会員と手助けしたい提供会員が登録会員になることにより、地域で相互に助け合う活動を行っている。私たちはファミリー・サポートについて詳しく知るためにファミリー・サポート・センターに直接訪問し、お話を伺った。現状は、提供会員の不足が課題として挙げられている。依頼は 2500 世帯以上あり、提供会員は 600 名登録されているが、実際活動しているのは 100 名も満たない。その 600 人の中でも 40%は 60 歳以上の会員が占めている。そのため依頼会員と提供会員の年の差による様々な課題が問題視されている。特に依頼会員の預かり方法が時代に合っていないこと、動作が遅いことやそれによる時給の支払増加に対する心配の声が出ている。またファミリー・サポート自体の認知度が低いため提供会員数が少ないという課題が見られる。

【提案内容】

1. 概要

提案内容として、八王子市役所と大学生が共同で行うファミリー・サポートを促進する計画を提案する。具体的な内容として、八王子市内の大学が子供の世話をしたいと希望する学生を集め、説明会を行い、そしてファミリー・サポート・センターの会員とペアになって子供を預かるものである。

2. メリット

(1)ファミリー・サポート・センター側としては、人材が増えることによって今までに多くの子供を預かってきていた会員の負担が減り、また学生と60歳以上の会員を組み合わせることによって、利用者側のクレームである60歳以上の人のみで預かるといったケースが減少することができる。

(2)学生側としては、子供を実際に預かることによって、知識や経験を得ることができ、教育などの職業に就きたいと希望する学生にとって、自分が働いている姿がイメージしやすくなる。またこのような体験をしていることにより、面接などでアピールすることができる。

(3)八王子市役所としては、学生と提供会員が組むことによって、ファミリー・サポートの本来の目的である地域のつながりを用いた子育てサポートを促進させ、八王子の活性化につながる。

【実現可能性】

これらの私たちの提案の実現可能性を生み出す根拠として3つ挙げられる。

まず1つ目に、育児問題の対策として他団体の成功例を確認することができているという点である。千葉県松戸市聖徳大学は、今回の私達の提案のように、複数の団体で連携して、「子育て広場」という親子と大学生が触れ合うことで、親の子育ての孤立を防ぐ取り組みをして成功を納めている。

2つ目に、サポート側の学生の負担軽減と学生と提供会員の連携がある。具体的なサポート側の学生の負担軽減方法として学生側がグループを複数作り、そのグループで活動することによって都合のつくときに提供会員のサポートに回ることが可能であるため、学生一人一人の負担が減少する。また各グループと提供会員を組み合わせることによって、短期的な関わりではなく長期的な関わりになるので提供会員と学生が連携を取りやすく、スムーズで質の良いサポートを提供することが可能である。

3つ目のファミリー・サポートの大きな課題点として提供会員数が600人の登録者がいるが、活動を行っているのは100人にも満たないことである。そ

こで、第一にファミリー・サポートの認知度を高め、提供会員数を増加させる必要がある。会員提供側のターゲットとしては、60歳以上の人と大学生を連携させることを目的としている。学生と提供者数を集めるため、学生には教育実習として大学と連携を結び、学校のホームページなどで呼びかける。提供者は保護者が月に1回程度で拝見することのできる回覧板や育児のことについて考える機会の多い場所である病院、育児の託児所、保育所待機児童などで宣伝する。このように広告することによって、提供者・依頼者の人数を増加させることが可能になると考えられる。

【まとめと今後の課題】

1. まとめ

ファミリー・サポート・センターと大学連携することで、大学側は教育・研究の機会、学生の社会体験場の充実や大学の社会的評価の向上がある。ファミリー・サポート側としては、学生の持つ知識や若い行動力の活用をすることで、ファミリー・サポートの会員提供者の増加や年代を超えた地域交流にも繋げることができる。

2. 今後の課題

今後の予定として八王子市内の大学生がファミリー・サポートにどのくらい参加するかの調査とサポートをする大学生の負担をどのように軽減していくかを検討する。

【参考文献】

八王子市役所「ファミリー・サポート・センターについて」

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/017/018/kks001/p001413.html>

明日の保育がもっと楽しくなるサイト

「ほいくくらふ」

<https://hoiku-me.com/communication/family-support/20345/>

八王子市公式ホームページ

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>